

STAFF STORY



せや在宅クリニックで働くスタッフのストーリー



在宅医療を目指したきっかけは学生時代の看護実習
「家」で過ごす患者様とご家族を支える看護師さんを見て、
私もそこに携わりたと思った

看護師

医師の同行があるから心強い。経験を重ねて自信につながった



在宅医療に携わりたと思ったきっかけ

学生時代の看護実習でALS患者さんのご自宅に伺いました。「家」で過ごす患者様とご家族を支える看護師さんを見て、私もそこに携わりたと思いました。総合病院の消化器内科が中心の混合内科で3年半勤務し経験を積んだ後、「せや在宅クリニック」に転職しました。経験を積みましたがやったことのない処置も多いので最初は不安も多かったです。でも、医師の同行があったので心強かったです。落ち着いて仕事に向き合えました。医師のサポートをしながら、勉強と経験をさらに重ねられます。



ひとつひとつ丁寧に向き合い 不安から自信へ

在宅医療の看護師として働くことになり、まず不安だったのは「患者さんのお家に行くこと」です。人見知りでしゃべるのが苦手だったので、1週目、2週目の訪問では患者様・ご家族とのコミュニケーションを取るのにドキドキでした。でも3週目になると患者さんのことがわかってきて、患者さんも私のことを認識してくれるようになってきて、変化と嬉しさを感じました。質問でわからないことは先輩に聞いたり、調べたりして患者様に伝えました。時間がかかってもひとつひとつ丁寧に対応し信頼関係ができてきて、それが自信につながりました。



心がけ

患者様・ご家族様は心配・不安をもっていて、でも「お家で過ごしたい」「こうして過ごしたい」という想いを持っています。私はサポートできるように、安心してもらえるように関わっていきなりたいと思います。診療記録や看護記録を見てこういうことがあった、こういう症状があった、こういう気持ちだったというところを拾える限りを拾ってお話しすることを心がけています。症状は日々変わることもあり、不安があると思うので、私は患者様・ご家族様の不安が安心に変わるような橋渡しができるようにと意識し、その意識を大切にしています。

やりがいを感じながら

研修の参加のための勤務スケジュール調整や、育児に合わせての時短勤務など相談にのってもらいながら仕事を続けています。
スキルアップも家族との時間も大切にして、学生時代に「やりたい」と思った「在宅医療」の場でやりがいを持って働いています。